

会議録

会議の名称	令和4年度第1回加東市子ども・子育て会議															
開催日時	令和4年6月22日(水) 午前10時00分から午後0時05分まで															
開催場所	加東市役所501会議室															
<p>議長の氏名 (会長 飯野 祐樹)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>【出席委員】9人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯野 祐樹 ・浜口 大介 ・本山 早苗 ・合田 忠弘 ・福原 かをる ・森本 史子 ・服部 公一 ・橋本 一 ・岩崎 吉泰 <p>【欠席委員】4人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岸 祐馬 ・西田 千枝子 ・津田 雅世 ・井上 益子 																
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>なし</p>																
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育委員会</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">こども未来部</td> <td style="width: 33%;">こども未来部長</td> <td style="width: 33%;">広西 英二</td> </tr> <tr> <td></td> <td>こども教育課長</td> <td>井澤 彰子</td> </tr> <tr> <td></td> <td>同副課長</td> <td>稲岡 めぐみ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>同係長</td> <td>丸山 久美子</td> </tr> <tr> <td></td> <td>同主事</td> <td>西村 光</td> </tr> </table>		こども未来部	こども未来部長	広西 英二		こども教育課長	井澤 彰子		同副課長	稲岡 めぐみ		同係長	丸山 久美子		同主事	西村 光
こども未来部	こども未来部長	広西 英二														
	こども教育課長	井澤 彰子														
	同副課長	稲岡 めぐみ														
	同係長	丸山 久美子														
	同主事	西村 光														
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p>1 議題(議事)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 「(仮称)加東市子ども・子育て支援に関する条例」の制定に向けて (2) アンケート調査(対象:保護者)について (3) アンケート調査(対象:子ども)について <p>2 会議結果</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) について 資料に基づき審議しました。 (2) について 資料に基づき審議しました。 (3) について 資料に基づき審議しました。 																

3 会議の経過

- ・開会（事務局）
- ・資料確認

【議事（1）「（仮称）加東市子ども・子育て支援に関する条例」の制定に向けて】

《事務局から資料①、②に基づき、条例制定の目的、条例の基本的な方向性（案）及びアンケート調査の概要等について説明》

（委員）

地域社会、家庭と連携するために、学校教育の立場で一緒になって考えていこうとしている部分が見えてこないのので教えていただきたいと思います。

もう一つ、条例の基本的な方向性の「子育てするなら加東市で」という思いは、皆当然のように感じています。ではオンリーワンの施策のために、このアンケートをどこでどのように取られようとしているのか、お聞きしたいです。子育てするための環境づくりというのは、全国でどこもいろいろ工夫されていると思いますし、いいところを取り合うのも大事なのですが、ここで本当に加東市に在住する者にとってこんな意味を持っているんだ、子育てすることに喜びを持っているんだというようなアンケートにならないかと思ったらオンリーワンの施策は出ないと思います。

（事務局）

一つ目の質問についてお答えします。学校教育との連携という部分ですが、この子ども・子育て支援事業計画というのは、教育も一部含まれていますが、割合としては「子育て」という概念が一番大きく入っています。教育について何も入れないということではありませんので、今後考えていきたいと思います。次にご意見としていただきましたオンリーワンの施策のためのアンケートの内容についてですが、事務局で案を作っておりますので、ご意見をご提案いただきますよう、よろしくお願いします。

（委員長）

『子育て』を考えた際に、まず『地域』というものがあり、地域の中に『学校』があり、子どもたちの生活を考えた際には、学校だけではなくて、そこから家庭、さらに地域というところが一体化となって子育てという営みが展開されていくという認識です。その中でこのアンケートにおいては地域・学校・家庭の全体像を包括的に捉える中で、まずは、加東市のお子様たちがどのような状況に置かれているのか、というところを判断する材料のアンケートになると思っています。家庭での状況、学校での生活の状況、地域での参加・活動なども、まずはこのアンケートで状況を把握というところで確認できるかと思いますので、学校という要素もこのアンケートの中に内包されていると私は理解しています。

（委員）

学校教育に入る前の事前の家庭教育、地域での教育、その部分がこの子ども子育てアンケートになるのだと思います。

学校で今問題になっているのは、不登校生やいじめの問題で、これは5年、10年の問題ではないんです。そこを解決するために、就学前の教育の視点で連携する部分が取れるような加東市になって欲しいなと思っていて、就学前から、さらには妊娠した時点で家庭での教育は始まると思うがそこを変えることで、若いお母さん方がこれから安心して子育てができる、あるいは仲間と一緒に子育てしていけると思うんです。

(委員長)

今後条例を制定するにあたって、この条例が2、3年だけのものではなくて、今後10年、20年先の加東市の子どもを思っている条例になるようにするのは重要なポイントだと思いますので、先程いただいたご意見は条例の中に絶対含むべき内容だと思いました。

皆様の中で「条例とは」というところが引っかかっているかと思しますので説明しますと、条例の上には日本の法律というものがあります。条例とは地方自治体が法律を基にその地域の決まり事を決めていくというイメージです。なので地方自治体である加東市ならではの決まりごと、方向性を決めていくのが今回の作業になります。今回の条例は、市町村で作る任意法にあたると思います。市民がその条例を知ることによって意識の調整をしていくきっかけ作りになる、加東市として同じ方向を見て子育てをしていきましょうねという意識付けの一端として、加東市で子育てをより良くするために作っていく条例になると思います。

今回の条例が、10年、20年後先にも適用できるような内容、その根幹部分になるような内容を今回この会議で草案作りというかたちで進めさせていただきたいと思っています。

(委員)

条例ができたとして、文書にすると分厚くなりますか。

(委員長)

おそらく条例は、「条例と規則」の2つで作られると思います。

(委員)

それをどのように広めていきますか、アンケートは一般の方にも配布するのですか。

(委員長)

アンケートの方法につきましては後程説明があります。方法につきましても会議の中でどのようなところにアンケートを配布し、どのような回答者の方にご回答いただくのかということも決めていただきます。できるだけ幅広く、必要な対象者をこの会議の中で検討させていただきたいと思っています。

(事務局)

今回の条例につきましては、先程「条例と規則」とありましたが、規則までは考えてはおりません。条例はあくまで、子育てに関する意識的な取り組みを考えておりますそしてこの条例を制定した後は、加東市では市民、家族、企業、いろんな方が子育てに力を入れていること、いろんな媒体で『子育てするなら加東』アピールしていきます。

(委員長)

この条例をきっかけとして、加東市に「集まる」ということから、加東市に「集う」というきっかけ作りになる条例になればいいと思います。「集まる」というのは何となく集まるけれども、「集う」は何か1つの目的があって、方向性を一緒に持っていくというイメージなので、今回この条例をきっかけとして、加東市全体で同じ方向、一つの意識付けになったらいいと思っています。

(事務局)

条例を作って終わりではなく、いろんな施策も併せて検討しておりますので、子ども・子育て支援事業計画の中の施策だけでは足りないというようなところもありましたら、ぜひお伺いしたいと思います。

(委員)

外国人の方向けのアンケートもあるのですか。

(委員)

アンケートの対象者が、小学3年生、6年生、中学2年生となっているのは非常に正解だと思います。小学3年生は低学年の代表ですし、6年生は高学年の代表、そして小中一貫教育をされていても中学2年生はまた成長期の意見として段階があるので、正しい分け方だだと思います。

問19に市の子育て支援・少子化対策として期待することについての質問がありますが、私はこれがこのアンケートの狙いの中で一番強い部分だと思います。

子ども会の役員と話をする中で、地域の人が子育てに頑張ろうと思っているのに、親が「忙しい」という一言で結論が出てしまう。自分のときの親と比べて、今の親は忙しくて、ほとんど家に居なくて勤めに出ておられるということも配慮しないといけない。もう一点、子ども向けのアンケートの中で、問12のところに、「あなたが楽しみにしていることや夢中になっていることは何ですか」という質問があるのですが、これはなかなか低学年の子どもにとって書きにくいかもしれませんが、私はこの質問が非常に重要で、ぜひ条例に反映して欲しいと思うところです。子どもたちがどんな夢を持っているのか、希望があるのか、将来のことをどう考えているのかというのを引っ張り出していく設問になればいいので、ここにこそ選択肢があった方が低学年の子は答えやすいし、中学生になったらもっと真剣に答えてくれるでしょうし、親と子どもから一番聞き出したいところが、子どもの将来にむかっての設問になったらいいなと思います。

(委員長)

対象者は先程もお話いただいたように、子どもは小学生・中学生、保護者は就学前もということだったんですが、一つひとつ検討を進めていければいいなと思います。まず資料2の部分から、その後資料3、4と進めていきたいと思います。

アンケートの対象学年についてはどう思われますか。

(委員)

いいと思います。

(委員長)

小学3年生が対象者というの部分ですが、3年生と4年生ではアフタースクールの利用率が大きく変わり、アフタースクールの利用率が高いのはおそらく3年生だと思いますが、加東市の学年ごとの利用率はわかりますか。

(事務局)

今年の4月時点で、市内8つのアフタースクールの平均は3年生 34.2%、4年生 16.3%、6年生 2%です。

(委員長)

この点が気になっている部分でありまして、アフタースクールに行っているお子さんがたくさんいる中において、アンケート内に放課後の生活などの項目で、アフタースクールの利用の傾向が出てきて、家庭での状況が少し出にくいのではないかという印象を受けました。3年生を対象にするか、4年生を対象にするか、子どもの生活の実態調査ということを踏まえていかがでしょうか。

例えば、「困った事を話せる人がいますか」という問いに対して、アフタースクールの先生ばかりに答えが集まってしまうこともあり得る。アフタースクールに行っていない子どもたちがどうしているのか、というところがおそらく今回の設問のポイントになってくると思うので、どうかなと思いました。

(委員)

迷いはするんですが、4年生は身体の発育のちょうど境界線であり、心の面の発育も境目ですから、4年生の中でも3年生的な考えも、5、6年生的な考えどちらにも取れる年代だと思うので、データをはっきりと区別するには、3年生と6年生が分析しやすいと思います。

(委員)

3、4、6年生と加えるのはどうですか。変化があり得るのであれば、(どちらも)聞けばいいと思います。どちらかに割る必要はないのではないですか。

(委員長)

対象学年を増やすのは可能でしょうか。

(事務局)

3、4年生両方は可能です。委員の意見をお聞きし、小学生への設問にはアフタースクールの利用の有無をたずねることも検討します。

(事務局)

2、4、6年生というのはどうでしょうか。

(委員長)

アンケート的には、少し学年を空ける必要はあると思いました。

(委員)

2年生では正しいアンケートができるか心配な気がしました。

(委員長)

正確な数値が出るか、きちんと自分の考えがそのアンケートで反映されるかというところで、アンケートに対応できる時期というのを考えないといけませんので、2年生に関してはそこが問題になってくると思います。

(委員)

2年生だったら項目を減らして、答えられる部分だけというのは。

(委員長)

答えられる部分だけになると比較がしにくく、全部同じような質問項目にして、学年の違いが出るようにするのがやはり効率がよく、アンケートの意味としてはあると思います。

今、意見として出たのは、低学年・高学年の代表として3、6年生対象という第1案、アフタースクールの利用率の影響を考えて4、6年生という第2案、3、4、6年生にする第3案、間隔を同じにするという意味で2、4、6年生にする第4案が出ています。

(委員)

各学年で保護者や子どもの悩みも違うと思うのでなかなか選びにくい。保護者も中学生になったらいろいろな思いを持っていて、3年生は初めての受験で、特に不安なことがいっぱいあると思います。家庭によって違うと思いますので、私としては中学生には全員聞くのがベストだと思います。

(委員長)

全学年は理想的なかたちですが、できる範囲というところがあるので、絞っていかな

いといけないというのはご理解いただきたいところです。

小学3、4年生で低学年・高学年と生活スタイルが変わる部分なので、ここをどう判断するかだと思います。おそらく6年生と中学2年生に関してはこのままいけると思うのですが、この3年生と4年生をどのようにして考えていくか。特に4年生は1人で家でお留守番できる子が増えてくる時期で、そのような子たちへのサポートの方法等も考えていく上で、アフタースクールという支援がある3年生に対して、4年生の方がサポート資源が少ないのではないかと。アンケートとしてはそういう資源が少ないお子さまに対して実態調査をする方がいいんじゃないかと思います。

(委員)

許されるならば全学年アンケートを取って、評価・分析したらいいんでしょうけども、子どもたちが内容を把握してしっかりとアンケートに答えられるかということも考えても難しいと思います。

中学1、3年生ではなく、2年生にした理由はありますか。

(事務局)

小学校1年生から中学校3年生までの全学年の中で3学年取るというかたちで、3年生、6年生と、中学生に関しては中学生活に一番慣れているというところで、真ん中の2年生で事務局案を決めました。

(委員)

私はある程度学年が空いた方がいいと思うので、小学生は3、6年生でいいと思います。中学生は1、3年生がいいと思います。中学1年生と3年生は完全に意識が変わってきますから。中学2年生を選んだのが「慣れてきた」という理由であれば、慣れていない環境の中でのアンケートの方がいい答えが求められると思います。

(委員長)

中学1、3年生を対象にするのは可能ですか。

(事務局)

タブレットで答えていただくので、可能だと思います。

(委員長)

中学生に関しましては、2年生と、1、3年生という2案で最終決定をしていただくというかたちでいいでしょうか。小学生の方は、他にご意見ありますか。

(委員)

近所のお母さん方と話していたら、子どもたちが小学校に慣れてきて、もうちょっとパートの時間を伸ばしたいなという時期が、2年生から3年生ぐらいからと聞いたことがあるので、3年生でいいと思います。

(委員長)

全体として3年生と6年生という意見の方が多い印象を持ちましたので、この会議の方向性としましては、小学生に関しては3年生と6年生で進める、中学生に関しては2年生のみ、あるいは1年生と3年生というかたちで会議では議案が出たというかたちでとりまとめていただければよろしいでしょうか。

次に、アンケートの実施時期についてです。今の予定でありますと、今年度中に条例作成を目指されていることを考えれば、今年度の実施という事で進めることになりそうです。この点について皆さんご意見はいかがでしょうか。

(事務局)

事務局として条例作成を目指しているのは今年度中ですが、皆さんのご意見を聞きながら、より良いものにしていきたいと思いますので、スケジュールに縛られすぎず、十分にご検討いただき、柔軟に考えていただければと思います。

(委員長)

もう一点、ご審議いただきたいこととしまして、この時期にアンケートを実施することの意味です。つまり、この2年間、コロナ禍という生活の中において、子どもたちの生活がかなり変わっている中において、このアンケートというものが今後加東市の状況を把握する、決めるといふところの正統的な情報が得られるかどうか。例えば小学3年生に関しましては、2年間のコロナ禍でいろんな制限がある中での回答となった場合に、本当に加東市の子育ての実態が出るのかという心配をしているところです。

(委員)

今までと違い、子どもたちはマスク生活の中、黙食や友達と距離を空けて過ごしており親も地域もですけども、アンケートの中に少しコロナ禍での状況みたいなものを取ったらどうかと思っていました。またこのような事が起こった場合に、学校や子どもたちへの対処が見えてくるのではないかと考えたりもしました。アンケートの中に一枠でもコロナに対しての状況がわかるものがあればいいと思います。

(委員長)

コロナの状況に関する設問という意見に関してですが、一番の改善策はコロナの状況ではない時にアンケートを取るのがベストだとは思いますが。少し状況が改善した段階でアンケートをするというのが望ましいと思います。そこに至るまでに恐らくまだ少し期間があるかと思っておりますので、このようなアンケートをする際によく研究の方法で使うものとして、プレテストという試行でやってみるということを行います。

試行でやってみることで、このアンケート項目は直した方がいいとか、この設問ではこういう情報が得られなかったとか、条例に持っていくにはこういう情報が必要だったとかいう部分分かるように、一度試しに少人数にしてやってみるという方法があります。そこで得られたものを踏まえて、アンケート項目の修正・改善をして、先程の対象学年に対して、少しコロナが改善されているであろう時期に、本番の大規模なアンケートをするというのも一つの方法だと思います。

2、3年後というのは難しいと思いますので、来年度中には本番のアンケートができたらいいと思います。このまま今の状況でアンケートをしてしまうか、またはプレテストをせずに本番のアンケートをもう少し遅らせてする、というところもあるかと思えます。

項目に関しては、先程委員の皆さんからいただいたご意見だけでもたくさん出てくると思うので、まだまだ改善の余地はあるかと思えます。せつかくの条例制定で、こんな大規模なアンケートができる機会はなかなかないと思うので、大切にこの機会を使っていくというのは絶対に必要なことだと思えました。

(委員)

賛成です。

(委員長)

ここまでの流れで決まった事としましては、まずアンケートの対象学年は、「小3、小6、中2」と、「小3、小6、中1、中3」のこの2つパターンで検討を進めていくという事、アンケートの実施方法につきましては、その後残りの時間でそれぞれのアンケートについてご意見をいただき、それを修正した上で時期を見てプレテストを実施し、そこで得られた情報を基に改善し、来年度を目途に本番のアンケートを実施すると

いうスケジュールで進めていくという案を、この会議で出た意見として提出させていただきたいと思いますが、事務局は大丈夫ですか。

では残りの時間で、資料3、4のアンケート項目について、ご意見をお願いします。

【議事（2）アンケート調査（対象：保護者）について】

《事務局から資料③に基づき、条例制定のための保護者向けアンケート調査の質問項目と目的（ねらい）を説明》

（委員）

問7「日頃、お子さんを見てもらえる人がいるかどうか」の質問で、ねらいとしては地域住民も入っているのですが、選択肢を見ると4の「知人」という記載だけで地域住民が出にくいと思いました。かっこ書きで地域住民と書いたり、より地域との繋がりが出るような内容に変更したらどうかと思います。

また、もう少し項目ごとにまとめた方が答えやすいと思います。

（委員長）

同じ項目ばかり並べてしまうと、同じ回答が並んでしまうという事もあるので、あえてバラバラに設置するという手法もありますが、答えやすさで言うと似た項目を並べる方がいいので、今後もまた検討を重ねたいところですね。

（委員）

子育ての悩みのところで、緊急時に誰も子どもを見てもらう先がない場合、公共の場でどこか見てもらえる先はあるのですか。あるならば、それも項目に入れていくのですか。

（委員長）

公共の場の活用なども今回いただいた意見として、項目に必要なだという内容であれば、改善が必要だと思います。

（委員）

子ども向けのアンケートで、お住まいの「中学校区」の部分は「小・中学校区」として項目を作った方がいいのではないのでしょうか。小学3年生の子に自分の中学校区がわかるのでしょうか。「中学校区」にされた理由はありますか。

（事務局）

「小学校区」の場合、1桁の人数になるところがあり、誰が書いたか分かってしまうと心配される方がいるかと思い、中学校区にしたのですが、中学校区の横には小学校の名前も具体的に入れます。新しく転入してこられた方は中学校区が分からないため、保護者向けのアンケートにも小学校名を入れて修正します。

（委員）

保護者向けアンケートの「5・子育て支援全般について」の問17ですが、回答の選択肢1に「荷物が多し」とあり、ねらいとしては子育て環境についてとありますが、質問の意図をお聞きします。

（事務局）

この質問は小さいお子さんがいる方を想定しており、授乳中の方だとミルク、哺乳瓶、お湯の水筒など、かなり荷物が多くなってしまうかと思しますので、それが大変だというアンケート結果が出れば、お湯やおむつの提供だったり、おむつを捨てられる場所な

どを、公共の場で調達できたり荷物を軽くできるようなこと等の施策を考えていかなければいけないと思い、質問にしました。

(委員)

附属小・中学校にはどのように対応される予定ですか。

(事務局)

今回のアンケートは学校のタブレット端末を使ってで回答していただく形ですので、お子さんの対象は、加東市立の小・中・義務教育学校生を考えておりまして、附属のお子さんは今のところ対象から外しています。

(委員長)

附属に関しては市外から通われている方もあり、他市の情報も入るので、アンケートの性質上対象外にした方がいいと思います。

それとは別に、母親と父親の回答率の差についても考えていかないといけないと思います。

(委員)

アンケートを聞くときにマイナスのイメージで悩みを聞き出そうというよりも、いい思いを引き出そうとしたり、もっといい意見を引き出して反映しますよというような、言い方ひとつでそういう問いも企画していただいたら施策に反映させやすいかと思います。

(委員長)

アンケートをする際に絶対に必要なことは、それをきっかけとしてネガティブ感情が生まれてはいけない、悩みの顕在化に繋がってはいけないというところに細心の配慮が必要になってきますので、文言の表現について再度確認する必要があると思います。

【議事（3）アンケート調査（対象：子ども）について】

《事務局から資料④に基づき、条例制定のための子ども向けアンケート調査の質問項目と目的（ねらい）を説明》

(委員)

問2ですが、西暦より和暦の方がいいのでは。

(事務局)

子どもたちは全員平成生まれですので、なじみのある和暦にします。

(委員)

塾に行っている時間やゲームをしている時間についての調査はありますか。

(事務局)

問11に「ゲームをしている」との選択肢はありますが、時間については聞いていなくて、問10でもお子さんの好きな場所、安心できる場所として「自分の部屋」も選択肢にあります。部屋で何をしているかまでは掘り下げていません。

(委員)

学校から帰った後に、お子さんが何にどれくらい時間を費やしているか、自宅での活動内容の調査もあればいいと思います。

(委員)

問11の選択肢10の「勉強をしている」は塾に行っていることも含みますか。

(委員長)

塾や習い事についての選択肢も必要ですね。塾や自宅での勉強もあるし、選択肢10が少しわかりにくいですね。

(委員)

地域の立場からも子どもを見ていたら、休日にスポーツ活動をされているお子さんがすごく多いと感じ、これに関わっている大人も子どもも時間を取られていると思ったので、部活動や地域のスポーツ少年団などの選択肢も具体的にあればいいと思います。

(委員)

問9の相談できる相手として、アフタースクールの先生はどこの選択肢に入るのでしょうか。

(委員長)

小学3年生に実施する場合は、具体的に「アフタースクールの先生」というのも入れておいた方がいいですね。自分たちがアンケートに答えるときもそうですが、なかなか「その他」の部分には書きにくいです。考えられる項目は全て入れておいた方がいいですね。

ではこのような内容で、一度事務局の方で修正いただいて、修正していただいたものを再度皆さんの方でご確認いただくという流れで進めていきたいと思います。

貴重なご意見ありがとうございました。

《議事終了》

・事務連絡

委員報酬について

・閉会挨拶（副会長浜口委員）

・閉会

4 配布資料

・「(仮称)加東市子ども・子育てに関する条例」制定に向けて(資料1)

・「子ども・子育てに関するアンケート」の実施概要(資料2)

・(保護者向け)子ども・子育てに関するアンケート(案)(資料3)

・(子ども向け)子どものアンケート(案)(資料4)

令和4年8月18日

会長 飯野祐樹